

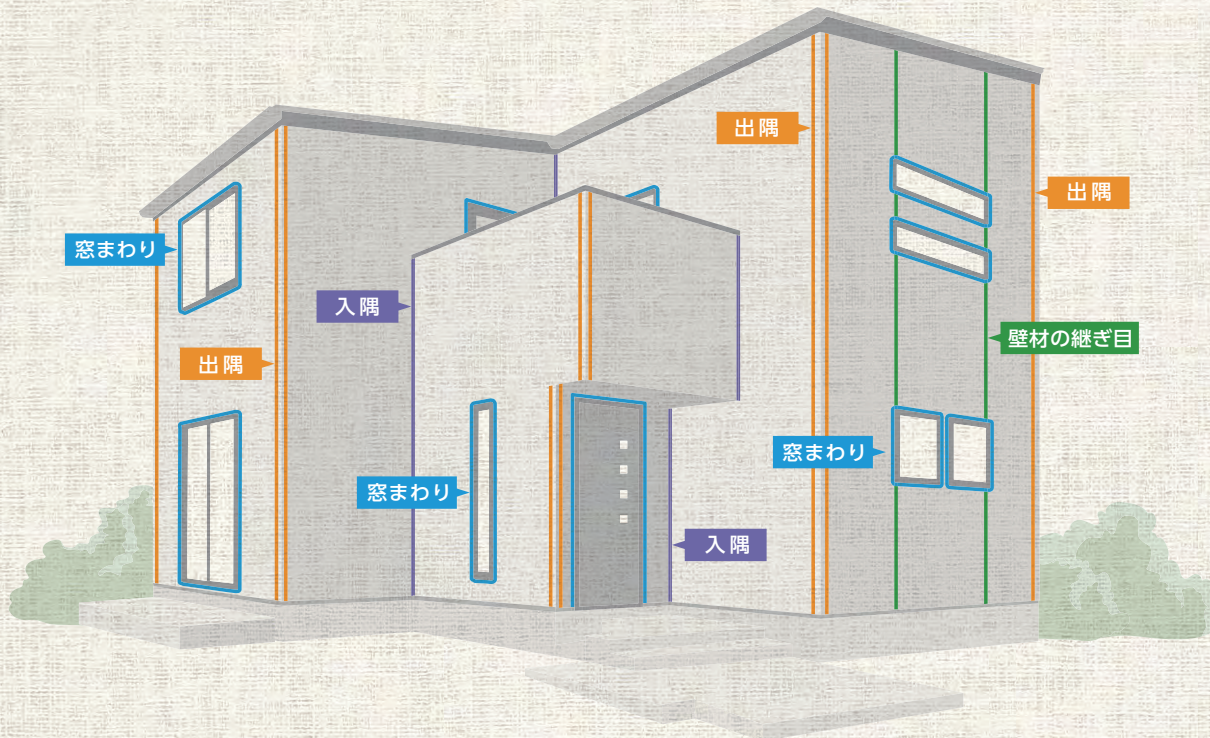
シーリングとは ?

窯業系サイディングなどの住宅部材は、交通事情や台風・地震・風雨などの影響によって微妙に動いています。

この壁面の動きを吸収し、美観を維持するために、壁材どうしの継ぎ目に緩衝材や雨水浸入を防ぐ役割として使用されるのがシーリングです。

しかし、シーリング目地そのものは直射日光を浴びるなど厳しい環境のもとにあり、特に傷みやすくメンテナンスが欠かせない部位とも言えます。

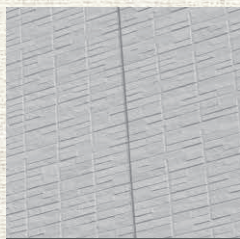
フュージェは壁材の上下左右の継ぎ目はもちろん、出入隅部や開口部に専用の部材を使用することでシーリング目地を大幅に減らし、より自然な壁面に仕上げることができます。



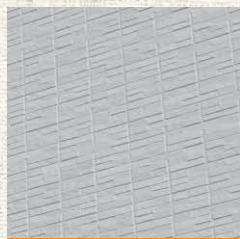
しほうあ
四方合いじゃくり (Ridge / COOL) なら…
シーリング目地に比べて板の継ぎ目が目立ちにくい。

壁材の継ぎ目

通常のサイディングの場合、左右接合部はシーリング納めとなります。



シーリング仕様



四方合いじゃくり

※画像はイメージです。

しほうあ
四方合いじゃくり (Ridge) なら…
工法で選択で、仕上がりに差が出ます。

出隅

建物の角は外壁材の継ぎ目となるため、通常シーリングが必要です。

入隅

建物の角は外壁材の継ぎ目となるため、通常シーリングが必要です。

窓まわり

通常開口部四周すべてにシーリングが必要です。窓だけでなくすべての開口部に使います。



シーリングレス^{※2}仕様で、窓まわりや出入隅部もスツクリ。

専用部材を用いることで出入隅部や窓まわりなどにシーリングを使わずに施工できるドライジョイント工法。外壁材どうしの継ぎ目が目立ちにくいので、ナチュラル感を表現できる木目柄や、タイル柄などの定番デザインの質感や素材感を引き出し、上質感あふれる外観に仕上げます。



ドライジョイント工法は「シーリング箇所を減らす工法」です。換気口まわりなどにはシーリングが必要となりますのでご注意ください。詳しくは最寄りの弊社営業所までお問い合わせください。

■工法毎の仕上がりの比較

	Fu-ge + 標準工法	Fu-ge + ドライジョイント工法
出隅	<p>シーリング目地</p>	<p>出隅部接合用部材で建物の角もスツクリとスマートな外観に。</p>
入隅	<p>シーリング目地</p>	<p>専用の鋼板入隅材で凹凸も違和感なくまとまりある建物に。</p>
窓まわり ^{※3}	<p>シーリング目地</p> <p>釘頭</p> <p>※実際は釘頭に補修液を塗布します。</p>	<p>下地から仕上げまで専用の部材を使って完成度の高い仕上がりに。さらに特殊な金具で釘を使わない納まりを実現。</p> <p>仕上がリスツクリ</p> <p>開口部まわりの外壁表面に釘頭が露出しない工法を開発。見た目にもとことんこだわりました。</p> <p>リーディングカンパニーならではのこだわりです。</p> <p>※開口部仕様 I^{※4}の場合</p>

※1 「COOL」はドライジョイント工法に対応しておりません。

※2 換気口まわりなどシーリング目地が必要となる部位があります。

※3 サッシの形状、寸法、位置などによりドライジョイント工法が適用できない場合があります。事前に確認してください。

※4 21mm厚品は開口部仕様 I に対応しておりません。